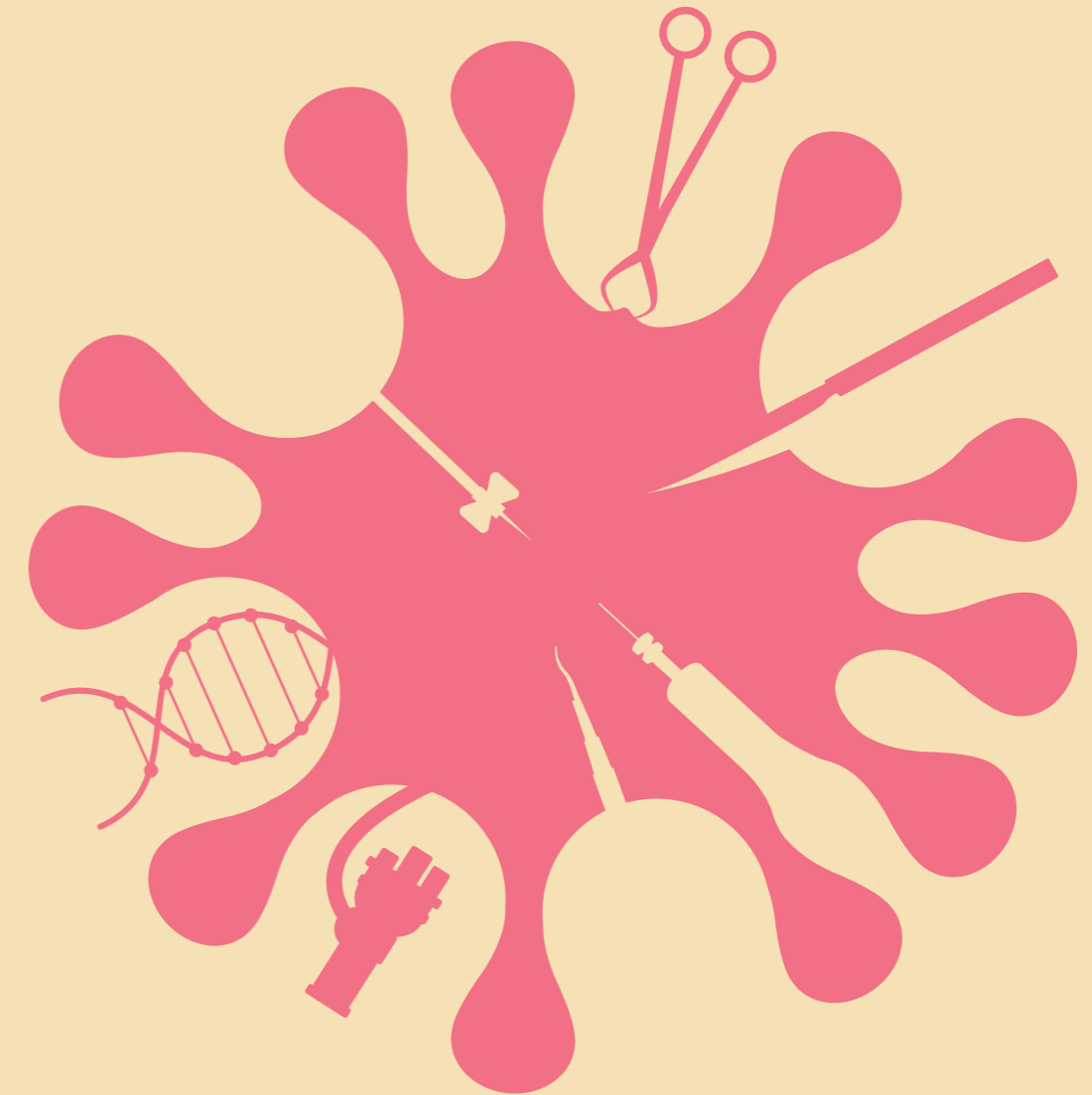


KITANO  
きたの広報

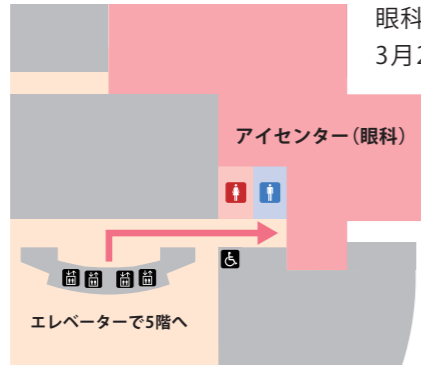


「がん」と戦う

INFORMATION

眼科移転のお知らせ

2022年3月22日より眼科は「アイセンター(眼科)」へと名称が変更となり、本館5階へと移転いたしました。皆さまにより充実した医療をご提供させていただきますので、ご理解の程よろしくお願い申し上げます。



眼科外来はアイセンターとして  
3月22日より5階へ移転いたしました。



寄附者一覧(2021年12月~2022年3月)

[法人] ナカジマ銅管株式会社 様 株式会社フジオフードグループ本社 様 オオエム建設株式会社 様 匿名:10社様  
[個人] 大谷 信子・仁三 様 南正博 様 松本 明 様 江岡 俊次 様 高橋 滋 様 野万 元博 様 鹿野 浩一 様  
藤井 浩宗 様 中川 茂子 様 門田 孝三郎 様 古城戸 秀美 様 市川 顕 様 松本 勝治 様  
匿名:12名様

QUESTIONNAIRE

読者アンケート募集!

「きたの広報」では、読者の方からのご意見・ご感想を募集しています。  
ご意見・ご感想は、QRコード\*を読み取りいただき、アンケートフォームより送信してください。皆さまの“知りたい!”にお応えできるよう精進いたします。

\*QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です。

ご意見・ご感想を  
お待ちしております



公式Twitterを  
ご覧ください



お気軽にフォロー  
してください。

[https://twitter.com/kitano\\_koho](https://twitter.com/kitano_koho)



公式Facebookを  
ご覧ください



スマートフォンから  
カンタンにアクセス  
いただけます。



LINE友達のご登録を  
お願いします



北野病院からの  
お知らせなどを配信  
させていただきます。



## がんに関わる全職種が チームとなって支えます

がんは長らく日本人の死亡原因第1位であり続けていますが、近年のがん診療の進歩はめざましく、新しい治療法や薬剤が次々と開発されるとともに、予後は大きく改善しています。昔なら手術をして切除するか、切り取れなければ諦めるしかなかったようながんが、抗がん剤と放射線治療で治ってしまう。あるいは、再発したけれども先進の治療法を組み合わせることでがんが消えた。そうした方を多くお見かけするようになりました。また、上手にがんをコントロールしながら元気に日常を過ごす方も増えています。医療技術の日進月歩の進化によって、がんは克服をめざす時代から共存する時代へと変貌していることを感じます。

一方で、治療の発展・多様化に伴って高度な専門性と同時に、診療科や部門の垣根を越えた総合的・横断的な診療体制がますます求められるようになってきています。北野病院は大阪府がん診療拠点病院として、従来よりがん診療の充実に取り組んできましたが、体制をより盤石にするために2019年に「がん診療センター」を開設しました。実際のがん治療にあたる各診療科をはじめ、緩和ケアやリハビリ、介護支援、就労支援など、がん診療に関わる全職種を統括する位置付けで、連携がスムーズにいくよう働きかける役割を担います。がん患者さんを身体的・精神的・社会的に幅広くサポートする安心の環境が整っています。がんに関してお困りのことやお悩みがありましたら、がん診療センターの窓口にご相談ください。



副院長 兼 消化器外科主任部長  
兼 消化器センター長  
兼 がん診療センター長  
兼 地域医療サービスセンター長

寺嶋 宏明

# 連携力で支える がん診療センター

## 患者さんの人生に寄り添い 納得のいくがん治療の 提供をめざします

当院は「医学研究所附設の臨床病院」として、安全で先進的ながん治療に取り組むことが使命です。それを先駆的に実践しながら、患者さんの人生にもしっかりと寄り添うがん治療をめざしています。

治療の選択肢が多様になった現在、それに伴って患者さんが迷われることも増えたと思います。当センターでは、治療に際して患者さんが道に迷って不安になられないように、きちんと話し合いのできる環境を整えた診療を実践していきたいと考えています。がんの治療においても、やはりご本人の価値観や人生観が一番大切です。患者さんにとってベスト、あるいはベターな治療を常に模索し、提供できるように、診療科はもちろんコ・メディカル、看護師がワンチームとなって、患者さんが真に納得のいく治療を行ってまいります。

## 安心してがん相談を

北野病院は、がんに対する治療を行うだけでなく、がん向き合う患者さんやご家族を優しくサポートする病院でありたいと考えています。そのサポートの一翼として、がん相談支援センターを設けています。

「がん相談」と聞くと、何を相談すれば良いのかと敷居が高く感じる方もおられるかもしれませんが。治療の面だけでなく、就業面や金銭面、これからの過ごし方など心配事はそれぞれで異なります。また、体や気持ちがつらいと、皆さんが大切にしたいと願う「普通の生活」を送ることが難しくなってきます。私たちは「がん相談」をひとつのきっかけとして、皆さんのこれまでの「普通の生活」を少しでも支えていける方法を一緒に模索したいと思っています。一人で悩まず、まずは気軽にがん相談支援センターに足を運んでいただければと思います。

がん診療センター 副センター長  
緩和ケア認定看護師

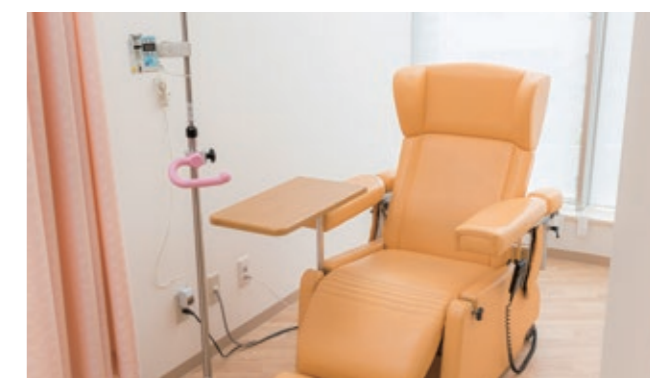
長谷川 美里



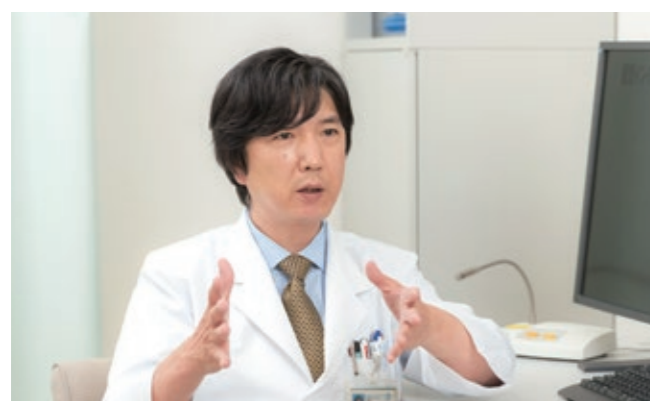
doctor's file

# 化学療法センター

外来患者さんの  
抗がん剤治療施設が  
新しくなりました！  
多職種が連携して安心できる  
治療環境を整えています



## 各診療科の主治医と 連携して、外来でがん化学療法 (抗がん剤治療)を行う 化学療法センターがリニューアル



腫瘍内科主任部長  
兼 化学療法センター長 西村 貴文

2013年に2階中央処置室奥から1階に移動した際にもベッド数を14床から26床に増やしたのですが、それでもお昼頃や連休前などの混雑時には予約が取りにくい状態が続いて患者さんにはご迷惑をおかけしていました。今回、6階に移転したのを機にベッド数も34床に増床、全体のスペースも以前の1.5倍ほどに広がり、ゆったりとした空間になりました。個別のスペースについてもパーティションの仕切りを設け、プライバシーを守りながら落ち着いた環境で治療を受けていただけます。患者さんからも「窓が大きいので明るく、きれいになったね」と喜んでいただいています。メインの診察室3室に加えて、さらに2室増やし、面談室としても利用できますので機能的に良くなったと思います。

我々腫瘍内科の役割は、北野病院全体におけるがん化学療法(抗がん剤治療)の安全管理とともに、この化学療法センターで、入院をせずに日常生活やお仕事を続けながら抗がん剤治療に通われる患者さんに、安全で確実な治療を受けていただけるように最前線でサポートすることです。



そのため、日々の診療前には必ず医師、看護師、薬剤師、事務員と多職種のスタッフ全員が詰所に集まって、その日の患者さんの情報を共有するミーティングを開いています。新しく来られる方やお薬が変わった方、治療法が変わった方などは特に留意します。薬によってはアレルギーを起こしやすいなどの副作用もありますので、そうしたリスク管理を徹底します。他院では、当番制で医師が割り振られているところ

も多いかと思いますが、当院では私たち腫瘍内科医が常駐していますので、アレルギー反応などがあっても迅速に対応します。

最近、免疫チェックポイント阻害剤をはじめとする分子標的治療薬や、新しい抗がん薬の組み合わせなどでがん化学療法はめざましい勢いで進歩しています。一方で治療法の選択や副作用の管理など複雑・多様化するがん化学療法の実践には、ますます専門的な知識や経験が必要となっています。当院では我々が各診療科の主治医と密に連携し、患者さんが安心して最適な抗がん剤治療を受けられるように尽力します。

患者さんにとって、抗がん剤治療を受けることは大変なことです。我々としては少しでも良い環境で、ストレスが少なく治療を受けていただけるように努めたいと思っていますので「こうした方がいいよ」とか、お気づきの点がありましたら遠慮なくお言葉を寄せていただけたらと思います。安全管理については、引き続き徹底して続けてまいりますので、今後ともよろしくお願いたします。

# かんごホットToday



看護部の目線でホットな  
医療情報をお届けするコーナーです



## がん化学療法分野の認定看護師の活動

### 患者さんの日常をケアする

化学療法センターでは、がんと診断された患者さんが日常生活を送りながら、通院して化学療法薬(抗がん剤)の投与を行っています。化学療法センターで働く、がん化学療法分野の認定看護師には、患者さんに安全で適切な抗がん剤治療を行う役割があります。また、治療を受けた患者さんが日常生活を維持できるように抗がん剤による副作用症状の緩和や、患者さん自身が副作用に対してケアを行っていきけるように支援していくことも重要な役割です。



### よりよい環境で治療が受けられるように

副作用については、特に身体的症状の変化(髪の毛、爪、肌、眉毛、まつ毛)によって苦痛を伴うことが多く、外見が変わることで人と会うのが億劫になったり、仕事を続けていくことがつらくなったりすることがあります。患者さんが自分らしく生き、治療を長く続けていけるように、症状の予防方法や、身体的変化が出現したあとのケア方法を患者さんとともに

考え、提案しています。

2022年1月末より化学療法センターがリニューアルし、治療を受ける患者さんのスペースも少し広くなりました。患者さんが、よりよい環境で治療が受けられるように、認定看護師として、最善のお手伝いをさせていただきたいと思っています。



## INAUGURATION GREETINGS

# 就任の挨拶



特任副院長  
腰地 孝昭  
KOSHIJI TAKAAKI

この度、特任副院長を拝命し心臓血管外科の診療も担当します。長らく福井大学の教員として北陸で過ごし、その前は九州の熊本でしたので約22年ぶりの関西での勤務となります。心臓手術といえばリスクの高い外科領域のひとつですが、その安全性、低侵襲性は日々高まっています。循環器内科とともにハートチームを結成し、患者さんの意思に沿った最適な治療を提案、実行できるように努力します。

また、手術では麻酔科、臨床工学技士、看護師等と調和の取れたジャンボジェットのような穏やかに運航する手術をめざします。どうぞよろしくお願いたします。



放射線診断科  
主任部長 兼  
放射線部部長  
石守 崇好  
ISHIMORI TAKAYOSHI

この度、放射線診断科主任部長を拝命いたしました。私は着任してまだ1年弱ですが、当院では昨年-CTから今年にかけて、私の専門であるPET-CTやSPECTの新しい装置が新館に導入されたほか、CT・MRI装置も更新されて最新鋭の装置が導入されています。近年、画像診断の中でも、対象臓器や検査方法などにより専門分化がかなり進んでおりますが、当科の医師がそれぞれの専門領域を活かし、各診療科の先生方や診療放射線技師、看護師、事務等の多くの職員と連携の下、患者様にとって有用な画像診断を提供し、北野病院の診療の質の向上に寄与できればと考えております。

今後ともご支援、ご協力のほど、どうぞよろしくお願いたします。



放射線診断科  
部長  
広川 侑奨  
HIROKAWA YUSUKE

このたび、2022年4月より放射線診断科部長を拝命いたしました。

前任地である独立行政法人国立病院機構京都医療センターでは、診療科長としてX線やMMG(マンモグラフィ)やCT(コンピューター断層撮影法)やMRI(磁気共鳴画像)などの画像診断・核医学・IVR(画像下治療)といった放射線診断科業務に携わってまいりました。

北野病院では今までの診療経験を活かして、放射線科スタッフと連携し、それぞれの患者さんが安全かつ最適な検査や治療が実施できるように尽力していきたいと考えています。

また、診療の質の向上や地域医療の発展に少しでも貢献できるよう、一層精進してまいります。どうぞよろしくお願申し上げます。



消化器センター  
消化器外科部長  
田浦 康二郎  
TAURA KOJIRO

このたび、北野病院消化器外科部長を拝命いたしました。前任地の京都大学医学部附属病院では、2008年より14年間、肝臓、胆道(胆のうや胆管)、膵臓外科を中心に診療を行ってきました。また、肝移植にも携わることができました。他院では手術を断られるような難易度の高い症例にも積極的に手術治療を提供してまいりました。一方で、体の負担の少ない腹腔鏡手術も数多く手がけてきました。

北野病院ではこれまでの経験を活かしながら、さらに北野病院で長く培われた伝統を継承しつつ、患者さんに最善の医療を届けてまいる所存ですので、なにとぞよろしくお願いたします。



心臓血管外科  
主任部長 兼  
心臓センター  
副センター長 兼  
臨床工学部長  
金光 ひでお  
KANEMITSU HIDEO

この度、心臓血管外科主任部長を拝命いたしました金光ひでおと申します。

これまで成人の心臓・大血管の外科治療を中心に学んできました。心臓外科の手術は他の科の手術に比べ、体への負担の大きい手術(いわゆる“大きな手術”)であることが多いのですが、近年低侵襲(体への負担の小さい)手術も盛んになってきており、北野病院でも低侵襲手術の導入をめざします。

生まれ育った大阪で微力ではございますが、地域医療に貢献いたしますのでよろしくお願いたします。



消化器センター  
消化器内科部長  
高 忠之  
KOU TADAYUKI

この度、消化器内科部長を拝命することとなりました。

消化器内科は、食道から大腸までの消化管、肝臓、胆のう及び胆管、膵臓と非常に多くの臓器の診療を担当しています。診療の多くが、内視鏡を使用した検査や治療になりますが、日々、精密な検査による早期診断とそれに基づいた治療をめざしています。新型コロナウイルス感染症の流行は、私たちの生活様式や医療体制にも大きな変化をもたらしましたが、次第にもとの日常を取り戻すものと期待されます。地域の拠点病院として、チーム医療による専門性と安全性の高い高度医療の提供を実現したいと考えております。今後とも、よろしくお願申し上げます。